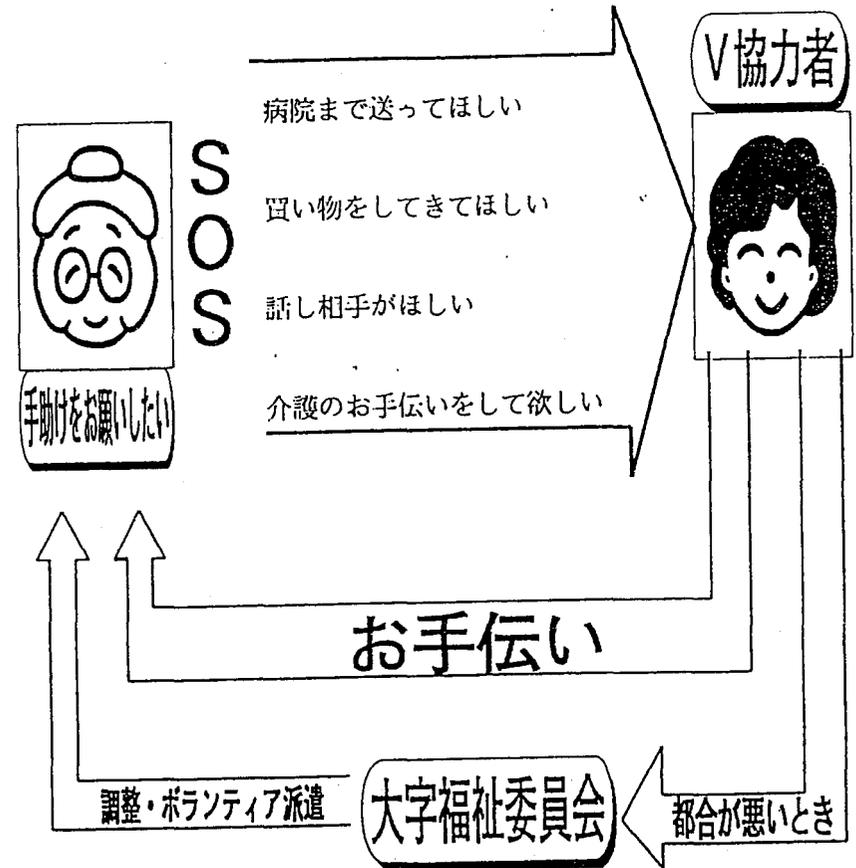


買い物してきますよ

買い物のついでするとき、家族と離れて暮らされている方など、家族に代わって日用品の買い物を行う助け合いです。

【お願い】 *買い物をしてくださる方は、ご好意による活動です。
万が一、希望の品と違うなどの問題が発生したときの責任は、負えないと考えています。

	毎日	1~3回/週	その他
常時	光雄 充治 すゑ子	義雄・恒子 佐市 (月・水・木・金)	
昼中 14時	新一	絹枝 (月・水・木・金) 信一 寿夫 容子 (月・金) (天気のよい時) はる江 (日)	昇太郎 幸子
夕方	みどり はる江	鶴子	宏之 (月~金) 千代美 (月~金) 雅俊
自分の 買い物の 時		茂太郎・善吉 たみ子・澄江 やす子	俊治 (土・日) 笑子 (土・日)
その他	駒治 (勤め帰り) 千春 (勤め帰り) 哲三郎	小百合 芳江 鈴子 修三 喜久江 利市 年男 久子	栄次 芳夫 勲 藤太郎 幸江 ぶみ子 末吉



お願いは、どうすればいいの

なにか、お手伝いをお願いしたいときは、自分のお願いしたいこと、相手がお手伝いのできる内容をたしかめて、直接お願いをします。
依頼(お願いされた人)を受けた人は、都合がよければお手伝いをお願いします。
都合が悪いときは大字福祉委員会の委員長までご連絡していただきます。
委員会で対応を検討します。

地域で支え合う結の家



古民家を改修した「結の家」外観

所の人々が楽しく寄り合ったり、要介護のお年寄りが食事や入浴をしたりできるサービスを提供する。社会福祉士や看護師、ケアマネジャーの有資格者四人が常

愛東外町にデイサービスセンター

19日から受け入れ開始

NPO法人「結の家」が開設

【東近江】東近江市愛東外町に古民家を改修したデイサービスセンター「結(ゆい)の家」が開設され、十九日からお年寄りを受け入れる。

同町では、平成七年に地域の中での老人福祉施策を考える「福祉委員会」が設置され、その議論を深めていく中で身近な地域にデイサービスセンター開設の必要性が浮かび上がってきたことから、その委員の一人で実務経

験のある元町社協職員の大田清藏さん(43)が代表を務めるNPO法人「結の家」が開設され、デイサービス事業を始めることになった。

完成した「結の家」は、町内で空き家となっていた木造平屋建ての古民家を借用し、お年寄りが安心して過ごせるよう、内部を食事や団らんの場となるテイクホール、入浴室、厨房、機能訓練室などをバリアフリー化して改修

整備した。結の家「結」とは、集

落内の助け合い組織の呼び名で、近所の人々が楽しく寄り合ったり、要介護のお年寄りが食事や入浴をしたりできるサービスを提供する。社会福祉士や看護師、ケアマネジャーの有資格者四人が常駐し、日、月曜日を除く毎日、午前九時半～午後四時まで受け入れる。利用するには、介護保険サービスの利用者負担が必ず。

楽しく自由に集える、憩いの場にしていきたい」と話している。

NPO法人「結の家」では、活動を支える会費を募集している。入会金一千元、年会費二千元で誰でも会員になれる。問い合わせは、結の家(☎0749-46-1740)へ。



バリアフリーにされた内部

あつたか広場を開設

しみんふくしの家八日市

子育て井戸端会議で情報交換

悩み解消の屋根付き子供公園

NPOの法人しみんふくしの家八日市（小堀理事長）が開設した「あつたか広場」（同市東沖野二丁目）は、子育て中の母親が自由に集まり、子供を遊ばせながら悩みを経験を話し合う情報交換の場だ。これまで、事業を行なう介護、保育、グループホームに加え、子育て支援にも乗り出した同施設は、県が取り組む地域の福祉サービス・生活支援の拠点「あつたかほーむ」のモデルケースとして、県内だけでなく、外からも注目を集める。



しみんふくしの家（東沖野）に開設の「あつたか広場」

部屋中にワイワイ、カヤカヤ、その笑い声が響き、砂場や遊具が人形、おもちゃ、絵本に代わった屋根付き子供公園といったところだ。もちろん公園だから、使用も無料、自由足が運べる。

あつたか広場は、世代交わり子育て支援を目的に設けられた。子育てに経験の浅い母親が子供とともに集まり、悩みや経験を話し合ったり、先輩からの話を聞いたりして、味方感が張り巡らされ

た約千畳のワンフロアを情報提供（井戸端会議）の場として使っている。利用時間は平日の午前10時から正午までだが、企画運営を担当する専属のコーディネーターが配属され、毎月一回、母親と子育て経験者ほか、お年寄りの参加をお話を聞いている。

また、広場へは同じ屋根の下にあるグループホーム（入所八人の高齢者も訪れ、子供と母親に交じっての井戸端会議に花を咲かせる。この温かい空気を、世代間交流だけでなく「地域が家庭を再認識させる。

小堀理事長は「八日市市という地域性から、外国の人にも参加を呼び掛け、子育てだけでなく、日常生活の支援や異文化交流にも努め、コミュニティの拠点にした」と、今後の抱負

を語る。園児も募集 同施設内には、子育て支援の一環として保育事業にも取り組んでいる。〇歳から就学前の幼児を対象に、自然と親子ながら、あつたか広場の学童保育所に通う子供のほか、ホム入所の高齢者のふれあいの場でもある。一時預かりから長期保育まで、時間や料金など詳しくは、しみんふくしの家八日市の保育担当（☎20-5457）へ問い合わせる。

「人々が互いに支え合い、互いに尊敬し合える、住み慣れた住家やわが町で、自分らしい生活がけいせいで実現されることを願う」。2008年3月、「しみんふくしの家八日市」（小堀理事長）が誕生した。



「あつたか広場」にグループホーム入所者も参加

新しい市民社会をめざして

もあつた。その目標に沿って「あつたか広場」ができた。単に施設に預かるだけでなく、入所者やボランティアの活動など、住民のつながりや地域の活性化を促すための取り組みも展開している。また、子育て支援の場として産前産後の母親支援のためのスピーチライター事業も実施している。いずれも保育士が担当している。

連絡先 八日市市東沖野2の5の5。電話、ファクス0748・20・5457

「あつたか広場」も進んでいる。会員も100人を超え順調に発展しているが、事務局員も川原さんやメンバーの介護員について「因果症にならなければ住み慣れた住家、わが町で子育てするお年寄り、医療、介護を総合的に考えていきたい」と抱負を語る。

住み慣れた家、町で

自分らしい生活を

保障を理念に身体介護と家事援助を行う訪問介護事業も実施している。身体介護は食事、排泄、入浴、衣類を着たり脱いだりなどの支援をし、家事援助は掃除、拭き、調理、買い物などが対象だ。利用区域は八日市市を中心に蒲生、神崎、愛知郡の一部に及び、日曜、夜間も含め24時間対応できる。

学童保育事業は、八日市市南区（市引小区）「学童クラブおきのび」や学童クラブのびき「おきのび」を開設している。女性の社会進

しみんふくしの家八日市

出が進むなか、低学年の子もたちが放課後、安全に、しかも有償で過ごす場所がないという親たちの要望に応えた事業だ。平日の午前11時45分から午後6時15分まで開いている。定員はそれぞれ20人ほどだ。

あつたかネットワーク



夕涼み会の看板を作る学童保育の子どもたち

で受け入れられなくないかが、初期であれば家族、地域理解と適切な福祉（介護）が求められることになる。また、のためには医療（専門医）が（介護）と福祉（介護）と連携が必要になってくる。適切な役割を果たす神経内科医不足しているのが大きな悩みという。NPOの頑張りがでは解決できない問題だが、川原さん「多くの人々を一緒に歩んでいきたい」と、前向きだ。【富田完未

